

# 劇的！！初優勝！！

田中 美紀(玄海) 21歳

最終18番のバーディーで栄冠



写真は大会が開催された志摩シーサイドCC

141打目があふれんばかりの笑顔をもたらした。最終18番は女子にとって長い397ydのミドル。このホールはティーグラウンドに立つ前、田中は同じ組の山田に1打差つけられていた。「バーディーしかない」。田中は全身全霊をかけて難ホールに向かう。明暗を分けたのは2打目。左に引っ掛けてグリーンを外した山田に対し、田中は残り160ydを6Iでグリーン上2m弱に2オン。安藤競技委員長が「(パットを)まっすぐ打てるゼロラインはあそこしかない」と強調する位置に乗せたのだった。山田は寄らず入らずのボギーとし、田中は見事に沈めた。セカンドショットが初優勝を決めたと言ってもいいだろう。

「優勝できるとは思っていなかった。とにかく一生懸命やったら結果が良かった。勝因？ 最後まであきらめなかったことでしょうか」と21歳ははにかんだ。最終日は2アンダーの首位タイでスタートしながら前半を終わってトップに2打のビハインド。それを13、15番のバーディーで追いつき、16番ではボギーをたたきながらも最終18番に望みをつなげたのだった。



今大会は中学2年から出場。最高位は昨年の12位で、日本女子アマにも初めて出場した。

福岡市の千早西小6年からクラブを持ち始める。父親から練習場に連れて行ってもらったのがゴルフとの出会い。沖学園中高と進むが、目立たない存在だった。「下手くそ。レギュラーでもなかったし、10人中5番目くらい」とは本人の弁だが、今はプロ志望の研修生として4年目を迎える。福岡市の自宅から練習場とする玄海GC(福岡県宗像市)まで通うのが日課だ。

研修生になって4年目。昨年、初めてプロテストを受けたものの、2次で落ちた。今年も受験する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のためにプロテストは中止。「全てに精度を上げていって、来年はプロテストに通りたい。玄海GCでは皆に良くしてもらっているし。今回の優勝は自信になります」と田中が力を込めた。156cm、58kg。ドライバーの平均飛距離が240ydという田中の得意とするのはパター。今大会最終18番でのウイニングパットの感触を忘れずに、プロテストへの道を歩む。

## 【1打差足りず、2位タイ選手の一言】

◆竹田麗央(14番ロングで2オンしながらも3パット)「あの3パットは悔しい。残り220ydを3wで乗せたんですが、17mのファーストパットをオーバーして。60台を出せば、勝てるかな、と思っていました。残念ですね。目標としていた日本女子アマの優勝はなくなりましたが、出場する試合で結果を出していきたい」

◆前田愛結(8番ショートでピン4mに1オンしながら4パットのダブルボギー)「4パットはいつ以来か覚えていません。このダボを忘れよう、と頑張ったんですが。この大会は小6から出ていて初めての決勝進出。成長したかな、と思います。(優勝を逃した)悔しさより嬉しさの方が強い」

◆山田萌結(1打リードの最終18番でボギーをたたき逆転負け)「18番の5Uでのセカンドを左に引っ掛けて。(V逸は)悔しいですね。前半が終わって2打リードして、一瞬いけるかな、という部分はありました。後半はバーディーチャンスもなく、パーがやっとという感じでした。優勝するには何が足りないか? メンタルですね」



今大会はマスクを着けて観戦



競技委員もマスク着用